

【所属名：環境生活課】

【会議名：第2回糸魚川市環境審議会】

会 議 録

作成日 平成25年2月14日

日	平成25年2月14日	時間	9:30 ~ 12:00	場所	本庁 201・202 会議室
件名	議題 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について （公開）				
出席者	【出席者】 11人 佐藤(芳)委員 鷺澤委員 恩田委員 小林委員 吉田委員 山岸委員 小笠原委員 清水委員 小野委員 山本委員 磯貝委員				
	【欠席者】 3人 佐藤(晋)委員 杉野委員 田村委員				
	【事務局】 吉岡部長、渡辺課長、中村課長補佐、高野係長、小熊主査				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	2人

会議要旨

- 1 開会 進行 渡辺課長
- 2 会長あいさつ 佐藤会長
- 3 議事

《主な質疑・意見》

・糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に関するアンケート結果について

【委員】 公共施設というのがあるが市役所のことか。

【事務局】 市役所ではない。無作為抽出なので、どこかはわからない。

【委員】 基本計画に市民・事業者・行政があるとあるが、このアンケートは市民・事業者だけで行政のアンケートに対する答えが見えない。市役所でペレットストーブを導入するとかそういうことが必要でないか。

【事務局】 このあと説明する資料に、市の率先行動の項目があるので、そちらで触れたい。

【委員】 市民アンケートの3ページにある、「生活様式を変えていかななくてはならない」という言葉は、誰でも言うことだが、もう少し具体例を示せばいいと感じている。生活様式という言葉をやや安直に使い過ぎている。

また、温室効果ガスの吸収源とあるが、施策としてどのようなものがあるかを明記してほしい。

【事務局】 具体的なものが見えれば議論も深まる。市民も目標の度合いが見えるので、今後記載方法を検討させてほしい。森林の保護と再生可能エネルギーをあわせて考えていきたい。

【委員】 アンケート項目が羅列してあるだけ、分類してアンケート取った方がいい。

【事務局】 欲張った内容のアンケートになっている。かなり精査したつもりだが、項目が多すぎたかなと反省している。細かくアンケートを取ったとご理解いただきたい。市民に示す際は、さらにわかりやすいものにしていきたい。

【委員】 グラフの着色の基本が、ページによってバラバラで統一性がない。実際取り組んでいる方向と、やっていない方向の色付けがバラバラ。

【委員長】 暖色は肯定派、寒色は否定的な意見というのが普通。独立したものは色がバラバラでも見やすければいいと思う。20 ページには、実数と比率が入っているが、グラフは全体の数字を入れておいて、パーセントだけ表示した方が分かりやすい。

【事務局】 市民周知の際には、見やすい物にしていきたい。

【委員】 ごみの減量リサイクルで、ごみの有料化が先延ばしになってきている。生ごみ処理機器の補助あっせんを実施している。その辺の成果はどうか。また、今の状況からごみの有料化はどうなっていくのか。

【事務局】 当面は、ごみの減量に取り組んでいる。10 月からは生ごみ処理機器補助金の増額に取り組んでおり、購入者へのアンケートも実施しているが、高い利用率が出ている。また、ごみを乾燥させることで、高齢者にとっては、ごみを出す回数が減らせると好評を得ている。家庭ごみの中で生ごみを減らせば、週3 回も出さなくてもいいというメリット。

また、ごみ減量の取り組みの成果は、4 月・5 月は若干ごみ排出量が高かった。紙・布を集積場に出しやすくしたので、家庭にストックしていたものを出されたようで、処理量が多くなっている。

ただ、補助金の増額をした 10 月以降は効果が出ていると感じている。

今後の有料化の方向だが、これらの様子を見たいうで今後判断ということで、今、お示しできる段階ではない。

【委員長】 アンケート結果を見ると、事業所のほうが厳しい結果となっている。個人では何とか取り組んでいけるが、事業所としては厳しいという現実がある。

【委員】 事業者アンケートに、エコドライブやエコカーの普及と記載があるが、自転車等での通勤するノーマイカーデーという考えもある。市役所としてはどのように取り組まれているか。

【事務局】 市役所では、月 1 回ノーマイカーデーの取り組みをしている。取り組みをした日に記録をするというきまりがあり、取り組みは継続している。

また、市内での移動は自転車やスクーターなどの利用を積極的に取り入れさせてもらっている。市役所の自転車置き場は、満車の状態にある。

【委員】 駐車場が足りないから、取り組みはもういいやとならないようにしてほしい。

【委員】 ISO14000 は事業所の勤務者すべての環境に対する意識調査がある。市役所もそういう意識のアンケートも必要。市役所は 14000 をとっているか。また、ISO 取得企業は市内に何社あるか。

【事務局】 市役所内のアンケートは、費用もかからないので、やらせていただきたい。市役所は ISO を取得していない。市内企業の数に後ほど報告したい。

・糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について

《第3章 地球温暖化対策の基本方針》

《第4章 施策の展開》

【委員】 22ページの「行政というのは施策であって、市役所という事務所ではない。柱の中に行政という部分と、施策という意味の行政の分類があいまいでわかりづらい。産業部分でも啓発という言葉が多くあるが、啓発は市役所がやる部分。それを受けて事業者が行うものが見えないと感じる。

これが一緒になってしまうと、金がないから施策ができなくてもしかたないになってしまう。お金がなくても方法はある。皆さんはどう感じるか。

【事務局】 政策という面での行政と、事業者という行政の立場、事業者としてはという目線では、記載方法等に修正が必要なところがあるのかなと感じた。そういう面は見直ししていきたい。事業所としての市役所の取組みの計画については、糸魚川市地球温暖化実行計画を持っているので、その中で取組みを記載している。

【委員】 市役所としてと、行政としてと、やるべきものは別。市の環境計画としても、分かりづらい。

【事務局】 精査していきたい。

【委員】 6月の議会に説明したいということだが、議員にもアンケートをとり、政策として何をやっていくのかを作っていくことが大切。その中には、ごみの減量化や森林開発。木島組のペレットの応援などがある。この計画では見えづらい。

【委員】 県の計画などでも、「促進します」というのは、自分ではやらずに応援していくとしている。この計画は施策の方向なので、これによる補助金などの施策は別なレベルで議論されるべき。予算などの規模もある。私にはこの計画は整っているように見える。

【委員】 それはそうだろうが、この内容では現実的には進んでいかない。施策を見えないようにしているようにも見える。現実的には予算がなくてできないものもあるが、やれないものはやれないでもいい。

【事務局】 具体的な数値目標など、立てられるものはこの計画の中で立てていく。難しいものは進行管理の中でやっていきたい。

【委員】 市として目標数字を出していくのは当然のこと。

【委員長】 分けて考えるのはその通りだが、具体的な施策を考えて行くと、あいまいなもの具体的なものが出てくることになる。

【委員】 予算がなくて出来ないものもあるが、それを恐れていて前に進まない部分がある。例えば2年先にはここまでという感じで詰めていく必要がある。

【委員】 25ページに、「学校給食での地場産食材」とあるが、パーセントで示されているのは農産物だけ。水産の数字というのは入っているのか。

水産では、23年9月に新しく加工所を設けて、学校給食として小中幼稚園に上越漁協のものをすでに提供始めている。24年度は総額で200数十万の取引があった。

今年度は、国の事業に乗り、強い水産業づくりの交付金を利用して、マイナス40度まで冷える冷凍庫を整備中で、3月下旬に完成予定。

学校給食にも本格的に参入しようと考えている。水産の文字も入れてほしい。

【事務局】 水産物のデータがないので、後ほど報告したい。

【委員】 25 ページで、自治会等が設置する街灯の設置助成について。LED 照明を設置するにあたり、機器の負担は自治会、電気料は行政だが、設置費用はどの程度必要なのか。街灯数や費用なども文書表現して、具体的な数字を出して説明した方が、理解を得やすい。

【事務局】 目標数値が定められるものは定めていきたい。

《休憩 10:58～11:05》

【事務局】 休憩前の保留事項に回答。

①市内の ISO 企業は、直近の数字で 17 社となっている。

②給食への地元水産物利用については、比率を増やしてはいるがデータとしては今のところ持ち合わせていないというのが担当課の回答。

③市内の街路灯と防犯灯でおよそ 6100 灯。交換には 4 万から 5 万円。補助は 3 分の 1、上限 1 万円としている。また、LED 照明の場合は上限が 1 万 5 千円に増額される。

【委員】 6 千灯の街灯があり 4 万円必要なら、2 億から 3 億必要。こういう数字を市民に示し、市としてはどれだけやっていくのかということが大切。

【事務局】 進捗を管理していきたい。

【委員】 「血液サラサラ」などと言っているのに、魚の摂取が少ない。

【委員】 魚は捕ってみないと量が分からないので、給食などの計画に載せづらい。それが原因でないか。冷蔵庫を整備し、在庫を示せばやれるのではないか。

【委員】 そういうことがあり冷蔵庫を設置した。

【委員】 サマータイムについて、意識を持っていれば削除しなくても啓発できるのでないか。夏は 5 時になれば明るくなる。

【事務局】 委員が言われる形でなく、時間をずらすサマータイムの導入は現実的でないということで削除した。ライフスタイルの観点であればそれとは違う部分もある。

【委員長】 糸魚川市だけで取り組むのには無理がある。その趣旨に配慮した形での取り組みをしていきたいと前回の会議で意見が出た。

【委員】 22 ページ「私たちの住む糸魚川でも気温の上昇など・・・」と位置づけているが、この裏づけは具体的にあるか。

【事務局】 2 ページに、経年変化の情報を載せている。上昇傾向にある。

《第 5 章 計画の推進》

【委員】 PM2.5 の影響はないのか。

【委員長】 観測し、データを集めているところ。このあと具体的な考察に入る段階でないか。

【事務局】 県内、現在の観測地は長岡と新発田。そちらでは異常な数値は出ていない。中国に

近い場所となると富山県側だが、富山の岩瀬浜のデータも注意してみている。

【委員】 数年前に大気の基準が決まり、行政としての基準があり、県も測定局の増設をしている。現在は、長岡の測定局の数字をリアルタイムにホームページに出せる用に取り組んでいる。随時、テレメーターに組み込み広めている。

【事務局】 委員が言われる形でなく、時間をずらすサマータイムの導入は現実的でないということで削除した。ライフスタイルの観点であればそれとは違う部分もある。

【委員】 推進のイメージとしては、環境基本計画の PDCA サイクルをこの地球温暖化でもやっていく考えということか。

【事務局】 中身としては、他の計画と同じような進め方になる。もちろんこの計画の PDCA は独立して回していくが、項目的にも他の計画とダブル部分が出てくる。

【委員】 糸魚川環境を良くしようということで、こういうものができてきた。時代背景が変わってきている。そういうものと照合しながら、どのように進めていくかが課題だと思っている。

【事務局】 目標の 25 パーセントという数字も、国の施策により大きく変わる。原発の稼働率が大きな影響を与える。上位計画などに変更があれば審議会の場などで変更をして進めさせていただきたい。

【委員】 糸魚川は森林開発をし、市民と工場の電気代ぐらいは自前で持つというのが夢。そうすれば企業誘致しなくても来るようになる。そういう形で進めてほしい。車の時代でない。公共設備の時代。車だけだと男女の出会いもない。そういうことも環境問題を契機に進めてほしい。こういう計画には、国の作り方もあると思うが、糸魚川独自で面白い地球温暖化計画を立てたとしてほしい。それを見て他市が糸魚川を真似するようにしてほしい。個人的な意見だが、他のところにはないジオパークや、歴史とか文化を生かし取り組みとして行ってほしい。

目標の 25 パーセントとあるが、今やろうとしているものをすべてやれば 25 パーセント削減が可能と考えているか。

【事務局】 25 パーセントは震災以前の考えで定められている。この数字について、現在は難しい数字となっているが、数値自体もこういう情勢にあるということで、見直ししていきたい

【委員】 25 パーセントは大きい数字で、民間でやるレベルと事業者がやるレベルでは違う。この 3 万 1 千トンをどういう比率で見ているか。企業もお金出してやらなければならないものも出てくる。

【事務局】 アンケート結果でも事業所で取り組んでいただくのが難しい回答もあるが、市民レベルで取り組めるものも限られているので、そういったものもあわせてトータル的なものを精査していきたい。

【委員長】 希望的には、こういう数字を達成していければ、全国レベルのネームバリューもできるので、そういったものも視野に入れながら、施策を進めて行ってほしい。

【委員】 糸魚川の 25 パーセントは、電力だけで何パーセントになっている。

【事務局】 そういう試算方法でなく、ゾーン単位での試算となっていて、当然電気も含まれて

いるが、それだけを試算できない。

【委員】 糸魚川で森林開発やれば、25パーセントは達成できる。アンケートでも金のかかることには事業所も積極的でない。糸魚川市がそういうことに挑戦してこそ、糸魚川市として新たなものを得る投資になる。その判断だと思う。市としても挑戦しているのかと言え、していないと思う。せめて調査ぐらいはしてほしい。

【事務局】 26ページ、エネルギーの地産地消に向け、来年度、新たなエネルギービジョンを策定予定している。そういうものの中で取り組めるものを検討させてほしい。

【委員】 そういう考え方を、市民に知ってもらわなければならない。進捗情報を情報開示していないとうまくいかない。安きに流れるし、事務方だけ知っていてもわれわれは何も知らないということで、うまくいかなくなってしまう。これをもとにさらに躍進してほしい。

【事務局】 積極的な見える化に努める。

【委員】 実行計画の対象にしていないが、子どもたちの環境に対する意識を高めることが大切と思う。こういう環境計画で成果を挙げていることを学校に提起し、環境教育としていただきたい。学校とのつながりを大切にして。庁内委員会には教育委員会に入るか。

【事務局】 入っている。

【委員】 ジオパークにも環境面を生かしていくことも大切と思っている。そういう施策をとってほしい。

【委員長】 今日の意見をもとに完成度の高いものに持って行ってほしい。

5 その他

《特になし》

6 閉会 鷺澤副会長